



株式会社セック

Systems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2023年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

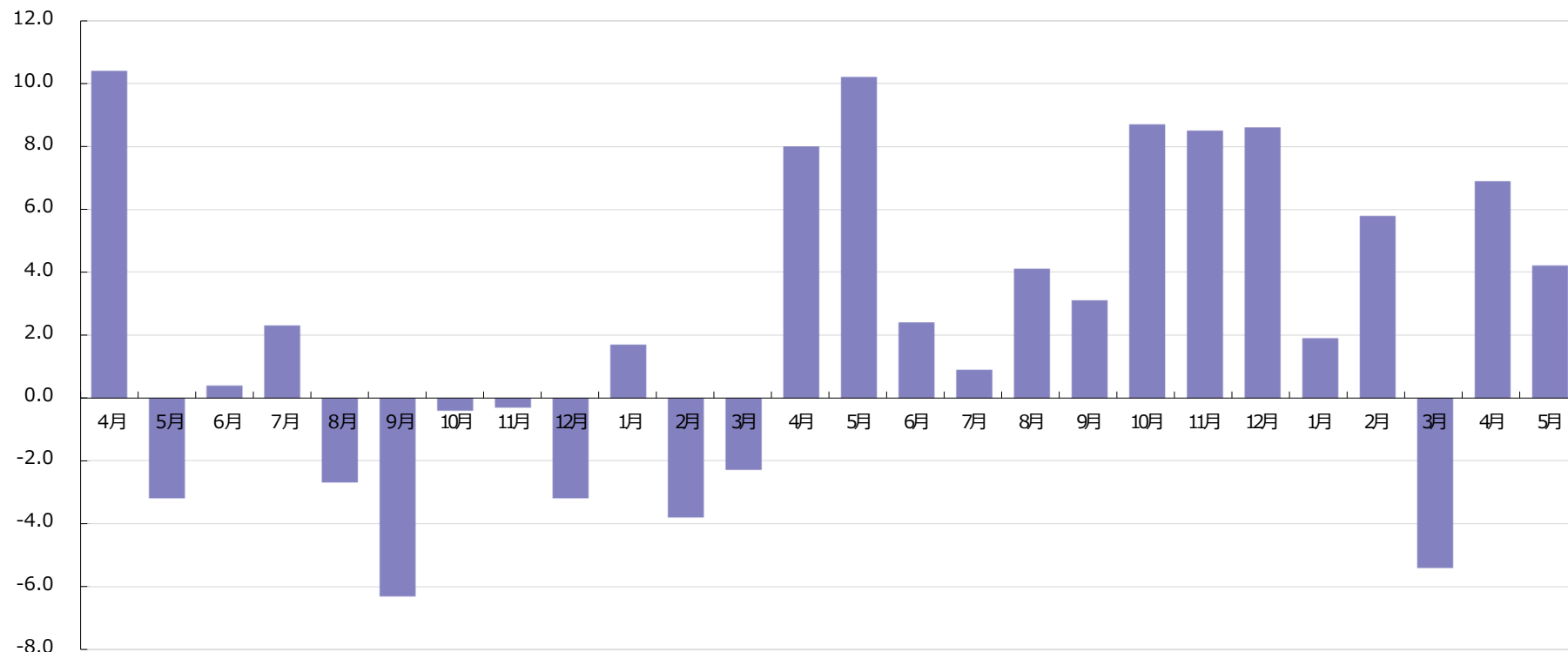
2022年8月8日

2023年3月期第1四半期 決算概要

2023年3月期第1四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



2021年4月以降の前年同月比の月別売上高は、2022年3月を除き、前年の新型コロナウイルス感染症による影響の反動で増加している。

2023年3月期第1四半期総括

売上高、経常利益は過去最高、営業利益は上場来最高、前年同期比で増収増益

売上高	: <u>1,606</u> 百万円	前期比	18.4%増		
営業利益	: <u>161</u> 百万円	前期比	36.8%増	利益率	10.1%
経常利益	: <u>177</u> 百万円	前期比	37.1%増	利益率	11.1%
当期純利益	: <u>122</u> 百万円	前期比	37.4%増		

受注高は前期比で減少したが、受注残高は過去最高

受注高	: <u>1,400</u> 百万円	前期比	6.7%減		
受注残高	: <u>2,991</u> 百万円	前期比	10.5%増		

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 移動体通信事業者向けのサービス系の開発が回復基調となり、官公庁向けの開発が増加し、ロボットの研究開発案件や宇宙天文分野の開発も堅調に推移するなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。
- 売上高、経常利益は過去最高、営業利益は上場来最高で、増収増益となった。
- 前年度第4四半期の反動で受注高は減少したが、受注残高は過去最高を維持している。

第1四半期損益計算書

	2022年3月期第1四半期 (百万円)	2023年3月期第1四半期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	1,357	1,606	118.4	—	—
売上原価	989	1,170	118.3	—	—
売上総利益	367	435	118.6	—	—
販売管理費	249	274	110.0	—	—
営業利益 (営業利益率)	118 (8.7%)	161 (10.1%)	136.8	—	—
経常利益 (経常利益率)	129 (9.6%)	177 (11.1%)	137.1	—	—
当期純利益	88	122	137.4	—	—

売上原価 外注費が大幅に増加
(外注費 4.9億円、前年同期比26.5%増／売上高外注比率30.5%、前期28.5%)

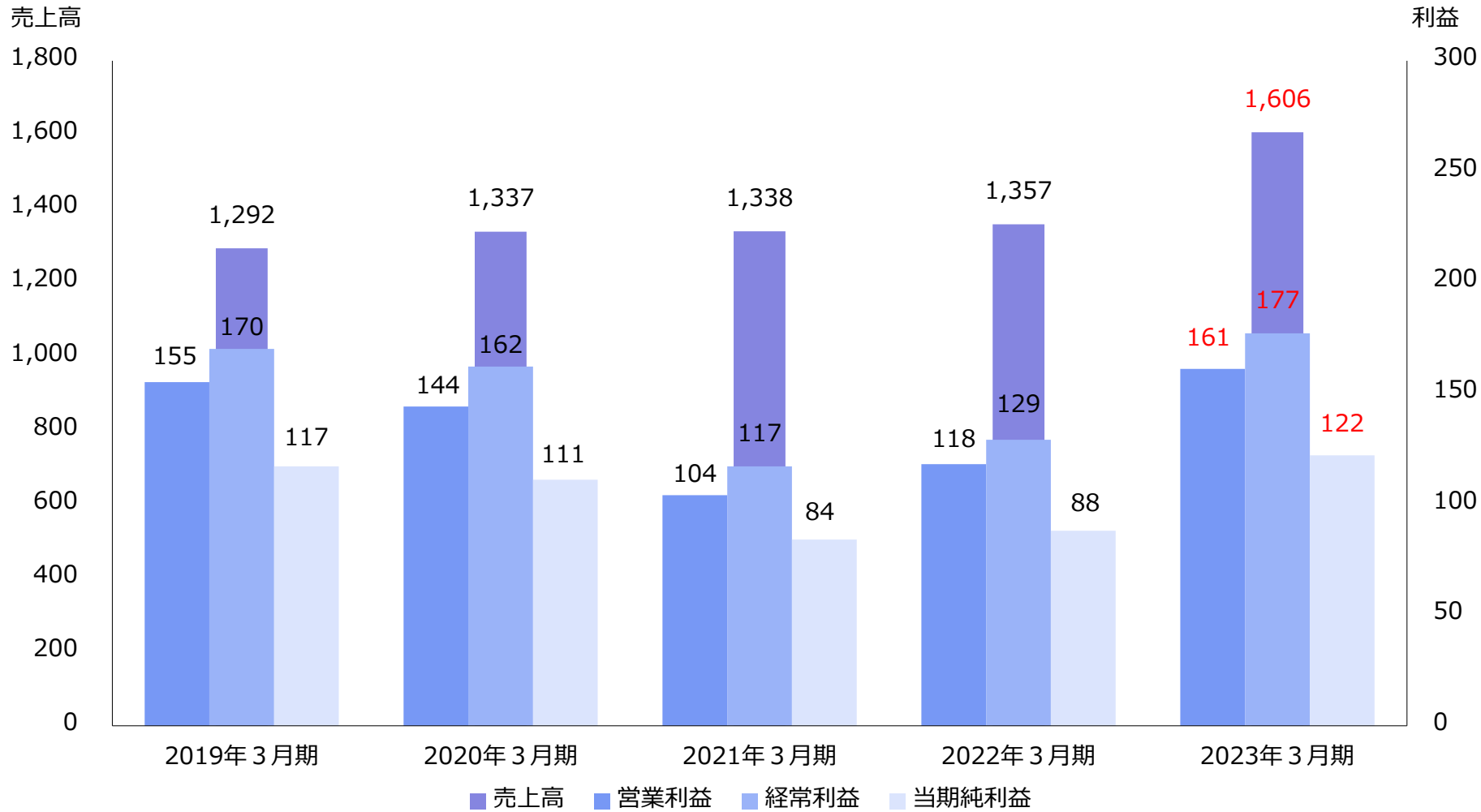
販売管理費 増床費用、家賃が増加、新入社員の増加などにより労務費が増加
研究開発費は16百万円で、前年同期比で10.9%増

営業外損益 研究開発の補助金収入が発生、受取出向料が増加

第1四半期決算業績推移（過去5年）

売上高、経常利益は過去最高、営業利益は上場来最高

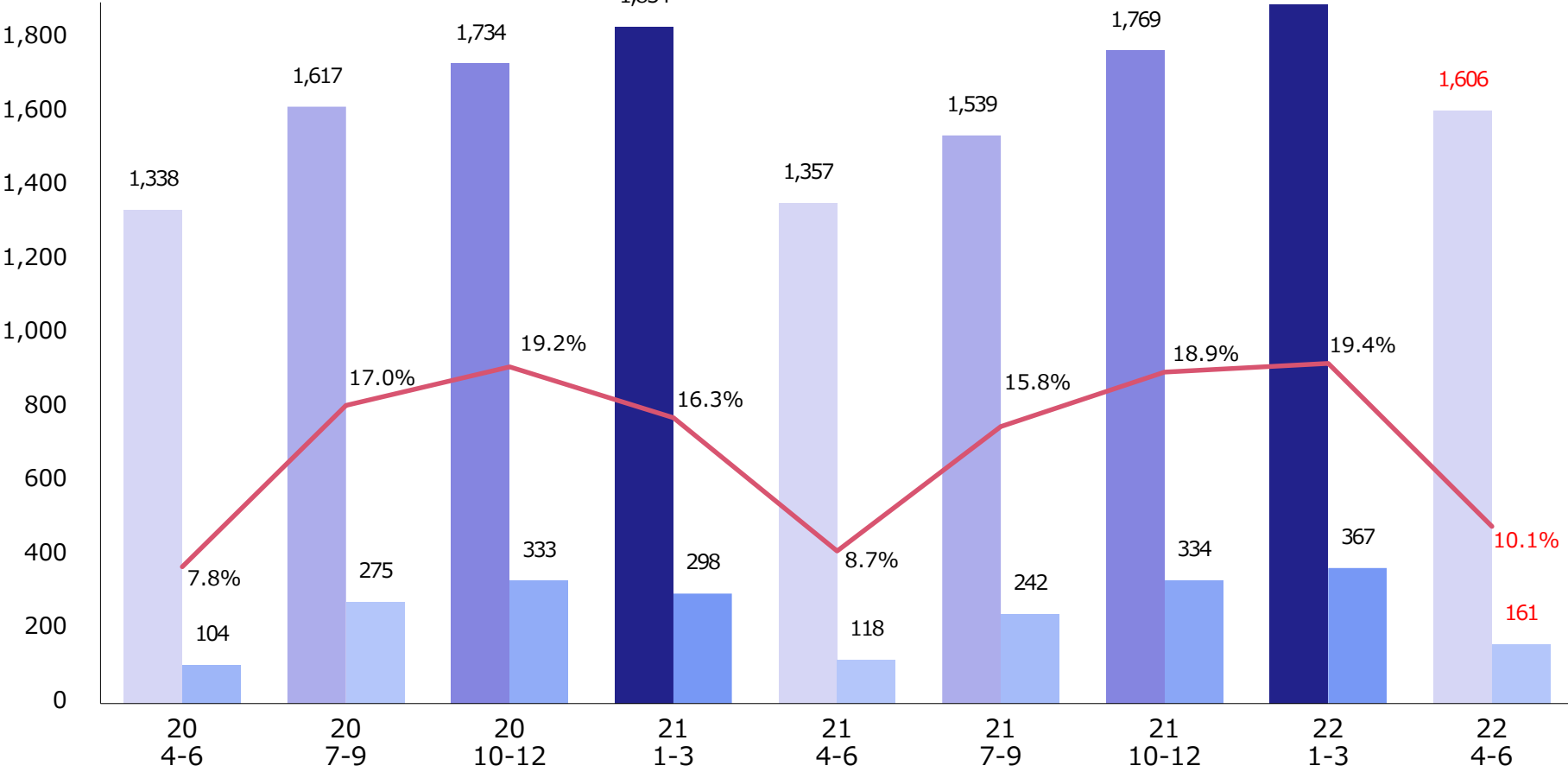
(単位：百万円)



四半期業績推移 (P L)

前年度第3四半期から、3四半期連続の増収増益

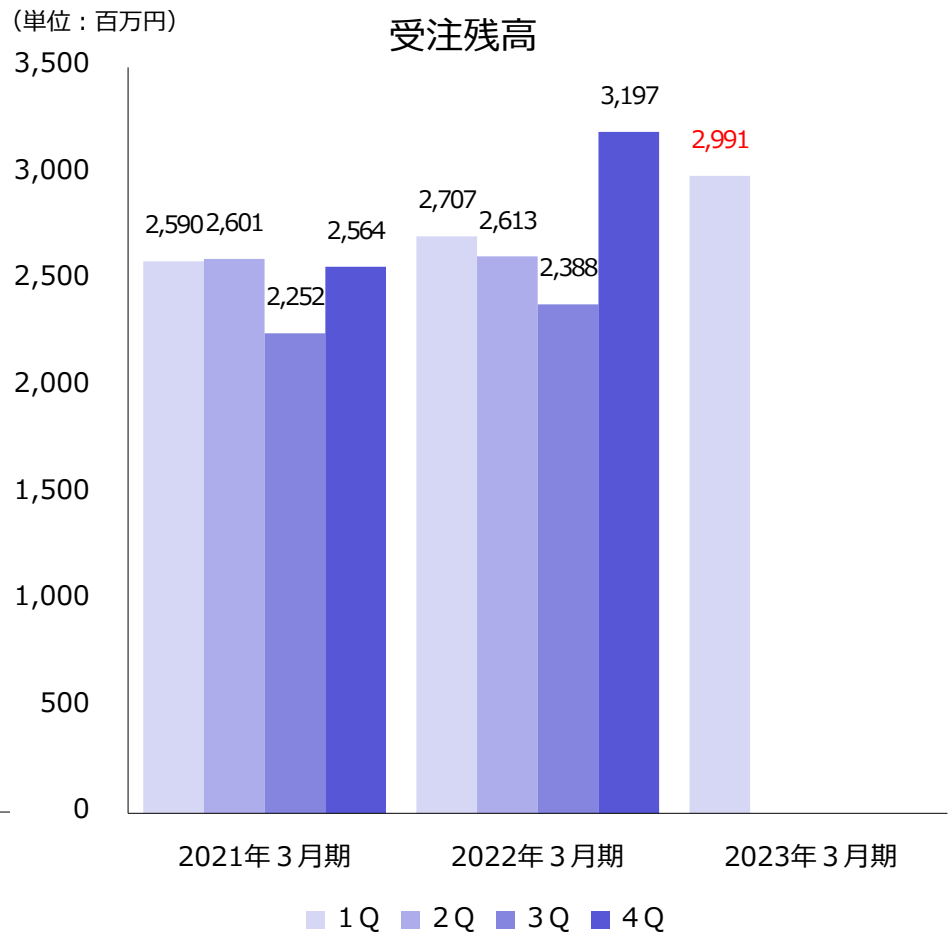
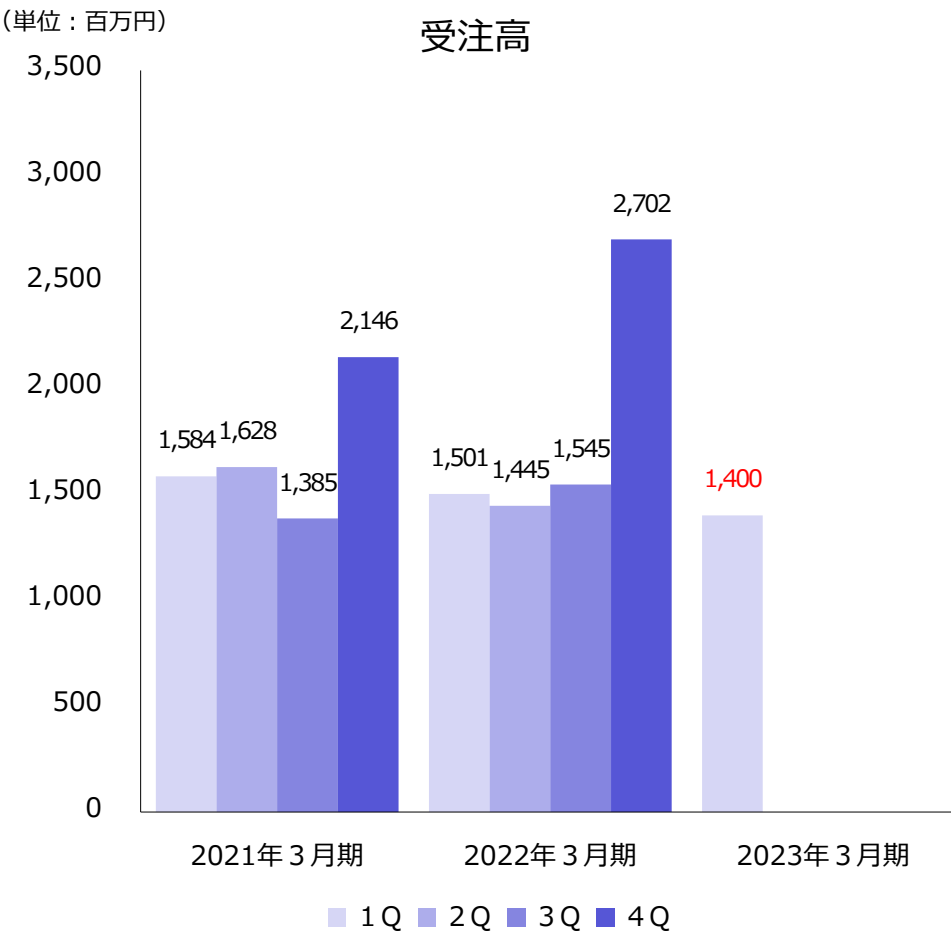
(単位：百万円)



■ 売上高 ■ 営業利益 — 営業利益率

四半期業績推移（受注状況）

受注高は前年度第4四半期の反動で減少し過去5位、受注残高は過去最高



第1四半期BF別の状況

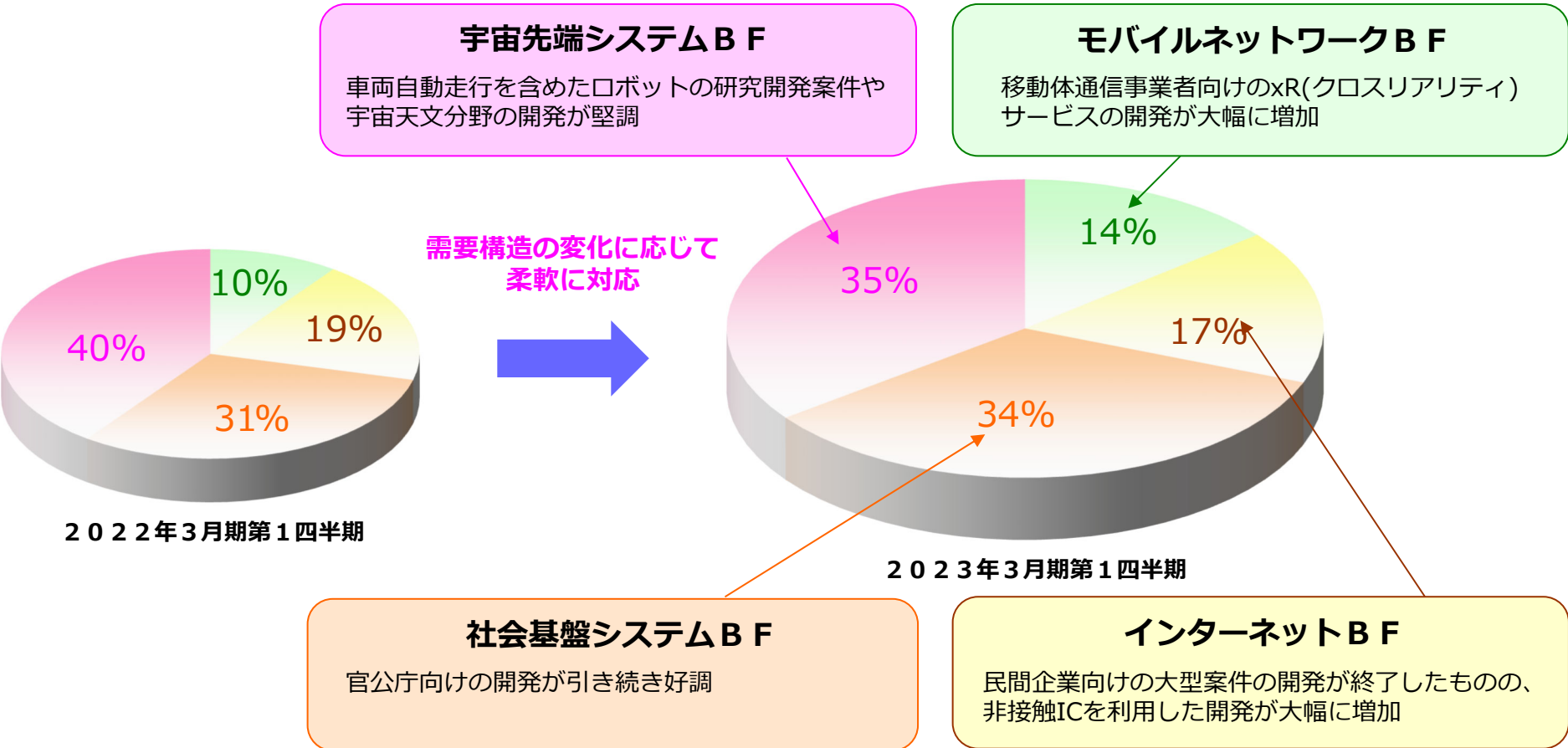
モバイルネットワークBF、社会基盤システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2022年3月期第1四半期		2023年3月期第1四半期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	137	10.1	228	14.2	166.3
インターネット	263	19.4	268	16.7	101.9
社会基盤システム	421	31.1	545	33.9	129.2
宇宙先端システム	535	39.4	564	35.2	105.6
合計	1,357	100.0	1,606	100.0	118.4

- ・ モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのxR(クロスリアリティ)サービスの開発が大幅に増加
- ・ インターネットBFは、民間企業向けの大型案件の開発が終了したが、非接触ICを利用した開発が大幅に増加
- ・ 社会基盤システムBFは、官公庁向けの開発が引き続き好調
- ・ 宇宙先端システムBFは、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件や宇宙天文分野の開発が堅調

第1四半期BF別構成比

モバイルネットワークBFと社会基盤システムBFが拡大



第1四半期のBF別受注状況

モバイルネットワークBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2022年3月期第1四半期		2023年3月期第1四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	109	131	212	194.1	230	174.7
インターネット	261	366	255	97.7	278	76.1
社会基盤システム	584	1,618	339	58.1	1,798	111.1
宇宙先端システム	545	591	592	108.7	684	115.7
合計	1,501	2,707	1,400	93.3	2,991	110.5

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは2,438百万円、前期(2,154百万円)と比較し13.2%の増加)

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのxR(クロスリアリティ)サービスの開発が大幅に増加したため、受注高は大幅に増加
- インターネットBFは、民間企業向けの大型案件の開発が終了したため、受注高は減少
- 社会基盤システムBFは、前年度第4四半期の受注大幅増の反動で、受注高は大幅に減少
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件や宇宙天文分野の開発が堅調で、受注高は増加

ロボットビジネスの状況

実績 (2023年3月期第1四半期 売上高約367百万円)
← 前年同期約365百万円 ← 前々年同期約363百万円)

車両自動走行、サービスロボットの研究開発案件が堅調 (ほぼ前期並み)

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行の研究ソフトウェア案件が微減
⇒ 車両自動走行の研究開発の計画変動による
- サービスロボットの研究開発案件は、大手自動車、国の研究機関などが増加
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM (ミドルウェア) などの標準化技術、自社製品ソフトを使った製品適用開発案件が主流
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、産業用ロボット、宇宙ロボット、農業など広範囲
⇒ 顧客層の拡大傾向は継続

今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

3つの強みで展開

- ロボットソフトウェアインテグレーションビジネスの推進
⇒ ロボット標準化技術、試作機、製品化・実用化 (ラストワンマイル)、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTM safety)など
製品+α (複数台制御、開発、教育、コンサルなど) のビジネス
- ソフト会社の特徴を活かしたロボット高付加価値化ビジネスの推進
⇒ ロボット+α (エンジニアリング、AI、xR、画像認識、RaaSなど) のビジネス

2023年3月期 通期業績見通し

2023年3月期業績見通し（変更なし）

4-6月期は好調であったが、受注高が前年同期を下回っており、
需要構造の変化を慎重に判断するため、業績予想は変更しない

(単位:百万円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	6,560	6,950	105.9
売上原価	4,585	4,890	106.6
売上総利益	1,974	2,060	104.3
販売管理費	912	990	108.5
営業利益 (営業利益率)	1,062 (16.2%)	1,070 (15.4%)	100.7
経常利益 (経常利益率)	1,107 (16.9%)	1,130 (16.3%)	102.1
当期純利益	780	785	100.6

売上高 受注残高が前期を上回っているため、前期比約6%増の計画

売上原価 社員数増加による人件費の増加、イノベーション促進のための投資（増床、設備投資）により増加を見込む

販売管理費 研究開発への投資、増床による家賃の増加などを見込む

営業外損益 国の研究機関からの受託研究による補助金収入により増加を見込む

当期純利益 前期に適用のあった税額控除がないため、微増となる見込み

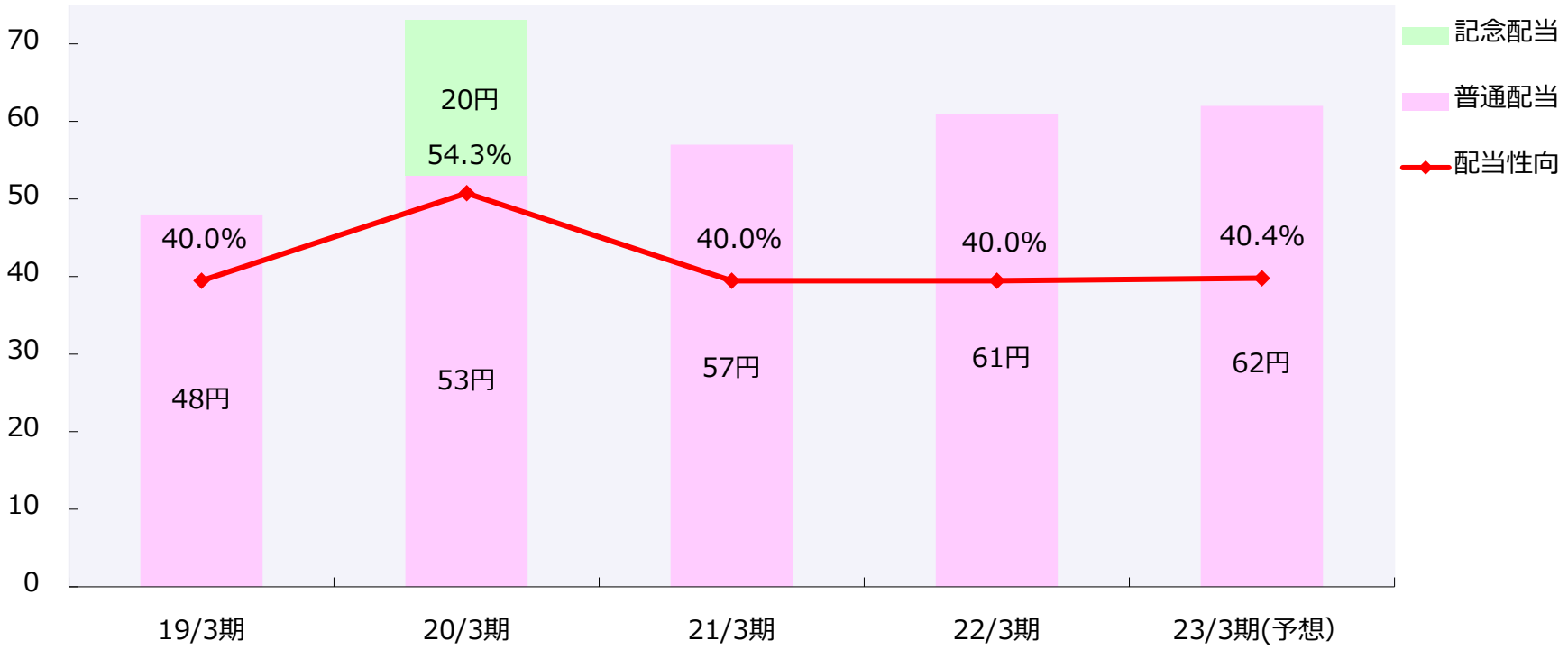
2023年3月期B F別業績見通し

モバイルネットワークB F、社会基盤システムB F、宇宙先端システムB Fが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想	第1四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系などの開発が回復基調となり、増加	➡	移動体通信事業者向けのx Rサービスの開発が大幅に増加し、想定を上回る展開	➡
インターネット	非接触I Cを利用した行政の電子化に関する開発が期待できるが、他のB Fとの人員配分の最適化により、減少	➡	民間企業向けの大型案件が終了したものの、非接触I Cを利用した開発が大幅に増加し、ほぼ想定どおりの展開	➡
社会基盤システム	官公庁系の開発が引き続き堅調で、増加	➡	官公庁系の開発が堅調で、ほぼ想定どおりの展開	➡
宇宙先端システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調、宇宙天文分野の開発も堅調に推移し、増加	➡	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件や宇宙天文分野の開発が堅調に推移し、ほぼ想定どおりの展開	➡

配当の方針

- 当面、配当性向は40%を目安とする。
- 2023年3月期は1株当たり62円の配当予想とする。



- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。